

テーマ：全ての子どもが英語を使ってやりとりをする本当の楽しさを実感し、
 「できるようになった！」が飛び交う外国語活動の授業を目指して
 ～リアクションにフォーカスした実践を通して～

熊本市立桜木小学校 教諭 瀧上 愛

要約

「外国語」が教科として導入されて3年が経った現在、「コミュニケーション能力の向上」を図る授業の構築が求められている。その課題に対応するために、最も重要なことは、対話を続ける手段として「相手の話にリアクションする」ことだと考える。本実践では、“相手にリアクションする”ことに焦点を絞った学習を展開し、“やり取りを心から楽しめる”ような外国語活動の実現を目指した。

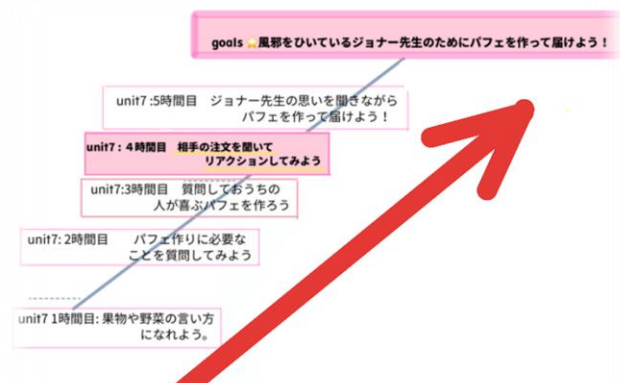
本実践を通して、相手にリアクションすることで対話が繋がり、コミュニケーション能力が向上することが明らかになった。また、単元目標を“リアクション”に絞ったことで、「2往復以上のやりとりの力」を確実に身に付けることができた。

<キーワード>リアクション 2往復以上のやりとり 全員参加 相手意識 ICT活用

1. 実践の実際

対象：4年2組 男子12人女子13人

「英語」という言語に初めて出逢う子どもであっても、「私もできるかも。やってみようかな。」と思えるような環境を整えた。一人一人の振り返りカードに書かれている困り感や“もっと学びたい”を適切に把握し、どうすれば子どもたちのリアクションが増えるのかを考え、資料①が示すように新たに単元構成を作り替えた。また、ALTの先生に苦手な言い方を録音してもらい、全ての子どもが安心して参加できるように工夫した。



資料①リアクションにフォーカスした単元構成

2. 成果と課題

(1) 成果

リアクションすることにフォーカスして単元計画を作り替えたことで、子どもたち一人ひとりの言語材料が増え、「コミュニケーション能力」が確実に身についたことがわかる。(資料②・③)

学習を終えて...

にほんごでは、意外と簡単だった言い方が、英語だとまたむずかしくなったり、日本語だと、どう反応すればいいのか迷った時があったけれど、英語だとすぐにぱっとでてくるものあったり、色々なリアクションがありました。(中略) 四年生で英語を始めてから、自分はコミュニケーション力が上がったと思います。

学習を終えて...

- ・みんなと英語で話したり、会話をしたりしたら、コミュニケーション能力がついたと、自分でも感じました。例えば、友達と会話をしていると、自然にあいづちの言葉が出てくるので、会話が続きたり、みんなの話がとても面白く感じたりします。
- ・パフェ作りやピザ作りでは、(以下省略)

資料②・③ UNIT7 終了時の子どもの感想

(2) 課題

今後も、子どもたちが「できるようになった」と感じることができるよう、教科を問わず授業内容・単元構成の改善を継続していかなければならない。

3. 参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』(2018年)
- ・村上加代子著『みんなにわかりやすい小・中学校の授業づくり 目指せ！英語のユニバーサルデザイン授業』(学研教育みらい2019年)